

創造と挑戦!



新年のごあいさつ

新十津川町長 植田 満

町民の皆さま、明けましておめでとうございます。夢と希望に満ちた平成24年の新春を、健やかに迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年、4月の統一地方選挙におきまして、町民の皆さまの温かいご支援をいただき、再び町政の重責を担うことになりました。早8カ月が過ぎました。統一地方選挙後の最初の町議会におきまして、まちづくり基本条例に基づき「公正かつ誠実に職務を遂行することを誓う」と宣誓をし、決意を新たにしたところでございますが、町民の皆さまの深いご理解とご協力により、滞りなく町政を進めることができました。ここに深く感謝とお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内では、3月11日に発生した東日本大震災や福島第1原子力発電所の重大事故をはじめ、記録的な集中豪雨や大型台風といった未曾有の大災害に見舞われました。母村である十津川村におかれましても、台風12号の豪雨により、山々が崩れ、道路が寸断されるなど、甚大な被害を受けており、一日も早い復興を願うところでございます。

一方、国内経済は、急激な円高や欧州の債務危機が深刻化する中、世界的な景気後退により、厳しい状況が続いており、また、TP

P（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉への参加問題では、その是非を巡って国全体が大きく揺れ動きました。まさに激動の1年であり、そして、艱難（かんなん）を乗り越え、未来に立ち向かうには、人と人のつながりが大切であるとあらためて感じた1年でもありました。

本町に目を転じますと、基幹作物であります水稲は、6月の日照不足等の影響によりその作柄が心配されましたが、7月以降の好天により回復し、水稲の契約数量に対する出荷数量が、約107割となるなど、平年を大きく上回ることができました。こうした米づくりの実績が認められ、本町の平成24年産の水稲作付面積が、全道で一番多く拡大されましたことは、生産者の皆さまの高い技術力と不断の努力の賜物であると、深く敬意を表するところでございます。

私は、再選の際に「健康で生き生きと暮らすまちづくり」「産業の活気あふれるまちづくり」「教育の充実したまちづくり」「安全で安心なまちづくり」「環境を創造するまちづくり」「健全財政と協働のまちづくり」という6つの約束をいたしました。

本年もこの6つの約束を果たすため、そして、未来に向かう子どもたちに元気あふれる素晴らしいまちを残し、伝えていくため、新しく策定いたします新十津川町第5次総合計画を柱として「創造と挑戦」により全力で町政運営に取り組んでまいります。

本年も町民の皆さまには、町政に対するより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご多幸とご健康を祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。

新十津川の辰年を振り返ると...

振り返ると...

12年前 平成12年・2000年

4月 総合健康福祉センター「ゆめりあ」オープン

6月 開基110年記念式典

10月 情報公開制度スタート

国内 有珠山が23年ぶりに噴火

三宅島噴火

二千円札発行

24年前 昭和63年・1988年

7月 新十津川温泉病院開院

11月 国民年金健康保養センター「グリーンパークしんとつかわ」落成

川村たかし著『新十津川物語』全10巻完成

国内 青函連絡船終航

青函トンネル開通

北電泊原発1号機発電開始

36年前 昭和51年・1976年

冷害により農作物被害

6月 吉野公園開園式

9月 町立歯科診療所開設

国内 ソ連のミグ25戦闘機が函館空港に強行着陸

北海道庁ロビーで時限爆弾が爆発。2人が死亡（北海道庁爆破事件）。

48年前 昭和39年・1964年

3月 新十津川小学校校橋本分校廃



2012年



新年のあいさつ

新十津川町議会議長 長谷川秀樹

新年あけましておめでとうございます。輝かしい平成24年の新春をご健勝のうちにお迎えになられたことを衷心よりお喜び申し上げます。皆さまには、日ごろから町議会に對し深いご理解と絶大なるご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、国内外の驚愕的な出来事が相次いだ中、本町は、比較的平穩な一年であったのではないだろうか。一昨年の開町120年を契機に、先人の労苦に感謝し母村との絆をさらに深め、この素晴らしい遺産を次世代に繋ぐ新しい協働のまちづくりがスタートしました。行政ではその舵取り役として、2期目となる植田町長が就任し、牽制役として11人の議員による新しい議会も誕生しました。

本町の産業を振り返ると農業の中でも主力の水稲は、夏の好天にも恵まれ3年ぶりの豊穡の秋を迎えることができ、質、量ともに生産者の努力が報われた年になり、道産米の更なる評価向上に繋がるすばらしい一年でありました。反面、国はTPPの参加表明後は、関係国との協議をどのように展開していくのかいまだに不透明であります。関税撤廃を原則とする協議には断じて参加しないことを願うところです。また、商工業においては、依然景気は回復傾向にはありません。政府の景気浮揚対策としての国からの交付金は一過

性のものであり、事業者の自助努力も限界があることから、効果的な事業の創設も必要な時期に来ていると考えます。

昨年是一个の大きな出来事で二つの大切なことを感じました。忘れることの出来ない3月11日の東日本大震災における「自然の驚異」と「人間の愛」です。大地震と大津波は、多くの人命や財産を奪い、加えて人間の英知を結集した原子力発電所を破壊し、甚大な被害をもたらしました。そして、被災者が悲しみに涙する中、多くの人々が全国からかけつけ、支援物資や義援金を出し合うなど、支え合う心と絆の強さを感じたところです。また、その半年後に起きてしまった母村十津川村の土砂災害は、122年前の悪夢の再来となり、わが身のように心を痛めた出来事でもありました。そのような中、母村を思う町民の温かさや時間をかけて育んできた絆の強さを実感した一年でもあり、十津川村の一日も早い復興を願うところです。

さて、地域主権が推進される中、自己決定、自己責任の基、自律性が強く求められています。今こそまちづくりへの住民参加が重要です。民主的なまちづくりを実現するには、町の意思決定機関である議会と住民との連携が重要であり、町民から信頼される議会活動をしなければと考えています。その一歩として、議会の活性化を図る観点から、全行政区に出向き議会報告会を3月定例議会後に予定しております。私も議員一同「議会が変わらなければ」を合言葉に改革を進めて参りますので、町民の皆さまの更なるご指導ご支援をお願い申し上げます。

最後に今年一年皆さまのご多幸をご祈念申し上げます。

止

9月 学総橋竣工式

12月 町立技芸学校開校式

国内 東海道新幹線営業開始
東京オリンピック

〔60年前 昭和27年・1952年〕

6月 新十津川青年団体連絡協議会設立

11月 滝川東高等学校新十津川分校、新十津川高等学校となる

国内 警察予備隊を保安隊に改組。自衛隊の前身

〔72年前 昭和15年・1940年〕

4月 開村50周年記念式典

12月 第1回村常会を開催

国内 大政翼賛会発会式

〔84年前 昭和3年・1928年〕

4月 滝川・菊水町間に自動車道開通

国内 ラジオ体操放送開始

〔96年前 大正5年・1916年〕

6月 糸屋銀行滝川支店橋本町出張所開設

11月 新十津川村報恩社発会式

国内 札幌の今井呉服店、百貨店として発足

〔108年前 明治37年・1904年〕

4月 奈良県吉野郡の団体移住者が入植

国内 日露戦争開戦
函館・小樽間鉄道全通